

2022年度第1回 外洋常任委員会 議事録

開催日；2022年6月17日（金）18:00～19:30

会議の場所及び方法：スポーツマンクラブとWEB会議（Zoom）の併用開催

出席者：（理事）

中澤信夫 副会長、大村雅一 常務理事、中村和哉 理事、安田大助 理事、
岩瀬善貞 理事、萩原ゆき 理事、鈴木祥子 理事、石川彰 理事、井上貴支 理事、
沼田浩行 理事、船澤泰隆 理事、

（委員会関係）

川合紀行 外洋計測委員長、平出篤志 外洋安全委員長、坂口城治 通信委員長

三浦信郎 レースマネジメント委員会外洋小委員会委員長

日下部大蔵 ルール委員会外洋規則小委員会委員長

船澤泰隆 国際委員会外洋小委員長（理事兼）、

服部好彦 ジャパンカップ委員会委員長、

坂谷定生 参与、鈴木一行 オリピック外洋小委員会委員

（事務局）

鈴木保夫 外洋事務局長、

小山悟 外洋艇登録事務局長

（敬称略）

記録者 鈴木保夫

大村常務理事の進行で18:00より中澤副会長の開催の挨拶で開始した。

中澤副会長：各地でヨットレースがいつも通りに2, 3年ぶりに開催されている。

JSAFは明日から新年度に入る。本日の会議を宜しく願います。

議事

1. 協議事項

大村常務より新年度の外洋艇推進グループ組織（案）が説明された。

協議の結果、理事の担当が一部修正されることになった。

2. 報告事項

大村常務より外洋常任委員会の役割が下記の通り説明された

- ・今年艇登録業務を積極的に行っていく。
- ・オフショアレースの支援、その一環として昨年サバイバルトレーニングを行っている。
- ・加盟団体との関係強化。

- ・外洋レースの安全確保、通信については通信委員会を立ち上げた。
- ・ヨットの合わない法規制を関係省庁に要望していく。
- ・その他委員会に属さないこと。

引き続き各委員長より各委員会の役割及び活動の説明がなされた。

① 外洋計測委員会（川合）

委員会の主な業務は、IRC と ORC の証書の発行が主な業務。

2年に一度、計測員の資格認定セミナーを開催している。

円安になりレヴィが上がるのが懸念され、来年は料金を上げなければならないと考えている。

② レースマネジメント委員会外洋小委員会（三浦）

レースを公平、公正、安全に運営するための情報を発信している。

全日本クラスのレースの公認審査をしている。

HP に危機管理プログラムを公開している。

③ 国際委員会外洋小委員会（船澤）

海外からの情報を皆さんと共有する委員会と考えている。

ワールドセーリングの O&O は今のところ動きはないが、今後情報があれば共有していく。

④ 通信委員会（坂口）

海岸局が減り、現在 4 局しかない。今後これらの局の活用と維持を検討し、全国を網羅してやっていきたい。

免許の実態を調査し、今後船舶局がデジタル化していくが、デジタル化された機器をヨットに活用することを考えたい。

⑤ オリンピック外洋小委員会（鈴木一行）

資料の基づき、パリオリンピックで一旦は採用された外洋ミックスダブルスの経緯、5月に和歌山ー蒲郡で開催された第1回外洋ダブルス日本選手権、今後の国際委員会の体制、オリンピック外洋小委員会の解散等の説明がなされ、外洋安全委員会、計測委員会、レースマネジメント委員会外洋小委員会に対する今後の要望が述べられた。

⑥ 外洋安全委員会（平出）

OSR の翻訳と安全の啓発活動が主な活動であり、今後は無線局の関係が通信委員会に移行する。

2023 年 2 月の合同会議は外洋安全委員会が担当する。

⑦ 外洋艇登録事務局（小山）

事務局の現状の説明の後、去年は非会員艇の登録が 6 艇。今年は既に 7 艇の登録があることが説明された。

・外洋団体長会議（9 月 24 日の予定）について

9 月 24 日は連休に当たることから、翌週の 10 月 1 日（土）に開催することで、外洋東海の坂谷会長に相談したところ、会場の目星がついたことが大村常務より報告された。

続いて坂谷会長より、愛知県の岡崎に適当な会場が見つかり、外洋東海が担当してハイブリッドで開催する事を予定している等の概略説明があり、後日関係者に案内することとなった。

・小笠原レース

大村常務より、沖縄レースの参加艇にアンケートを取っており、今後関係する団体及び外洋常任委員会の各専門委員から委員を出して頂き早急に検討委員会を立ち上げることが説明された。

・セールナンバー登録

大村常務より、去年はコロナ禍でキャンペーンが思うように出来なかったが今後は行っていく。

3. 各理事・各水域報告

それぞれの水域の活動状況の概略が以下の通り報告された。

北海道東北水域（石川）

北海道：小樽は、去年は 5 月～12 月までシリーズ 7 戦のレースがあり、今年も同様と思われる。

室蘭はクルーザーも減ったこともあり、ほぼレースは行われていないが、唯一のレース（函館一室蘭）は、今年は 8 月末に行われる予定。

津軽海峡：6 月～12 月まで月 2 回のペースで開催されているが、青函レースは 2 年連続中止、今年は開催（第 35 回）予定。

外洋いわき：レースの予定はない。

関東水域（井上）

全体的にはレースをやり始めている。

湘南：パーティーはやらないがレースの開催は少しずつ戻りつつある。

三崎：パーティー無しでレースは開催されている。

東関東：オーナーズクラブの活動が徐々に再開されてきている。銚子では3年ぶりにレースを開催した。

東京湾：クラブ、フリーレースは毎月開催されているが、大きなパーティー無しで再開されてきている。

全体的には何処も高齢化で運営に参加する人が少ない。

中部水域（岩瀬・坂谷）

駿河湾：4月から6月までに4レースを行った。

駿河湾横断レースの開催日程はまだ決まっていない。

東海：パールレースは艇長会議、前夜祭、表彰式を行い通常開催の予定で進めている。現在約20艇のエントリーがある。

関西水域（安田）

大阪湾はレースが活発に開催されている。

5月28、29日に関西ミドルボート選手権、6月4日は堀江謙一さんが帰ってきて5日に一般の方も参加して帰着のセレモニーが行われた。

6月4、5日は大阪湾オーバーナイトレース、7月から8月にかけて、天神祭りレース、和歌山での全日本ミドルレース等が開催され、コロナ禍でも活発にレース活動をしている。

九州水域（沼田）（メール報告）

玄海：クラブレースは3月しか開催できていない。5月予定の九州カップは中止。

南九州：レースは中止または延期になったが、安全講習会等を開催している。

沖縄：チービシレースは中止、沖縄一東海レースは開催された。

座間味レース、伊江島レースは開催予定。

4. その他

明日の評議員会・理事会の議題の概要が大村常務より説明され、19:30分に閉会となった。

以上